掲載記事

空調タイムス
THE AIR-CONDITIONING TIMES
2010.3.24(水)

NPO法人として始動
―研究開発、情報開示で支援
エアコンクリーニング協会
ATP検査など新科目も続々

西村　直人理事長

旧・エアコン丸洗い協会より発展的解消を持って昨年7月に新たに『NPO法人エアコンクリーニング協会』（理事長＝西村直人・エアコン丸洗い社長、会員数・50社）を設立。技術的な研究開発ならびに会員への情報開示を常とし、具体的にビジネスサポートや消耗材の供給などは、これまで通り、エアコン丸洗いが行っていく。

協会における役割分担をさらに明確化することで、一気通貫でのビジネス拡充を展開する構え。協会の具体的活動はクリーニング後の熱効率の改善データの計測やエアコン内のカビ汚染状況の検査などの見える化技術に加え、新たに資格制度の構築及びボランティア事業の活動などを計画している。

西村直人理事長は「16年前に家庭用ルームエアコンの洗浄を主体に〝共存共栄〟をモットーとしてボランタリーチェーンで発足した当時の協会も、いくつかの変遷を経て、やっと新たな形が見え始めている。エアコンクリーニングは今や、省エネを推進する上で、誰もが推奨する技法だが、いかに現在の環境性とマッチしたビジネスモデルを構築するか、会員への実需仕事を通じての還元が果たせるかを協会として今後も積極的に取り組んでいく」とする。

こうしたひとつの取組みが先頃、家電量販トップのヤマダ電機グループの一員となった「コスモスベリーズ」（本社・名古屋市）へのエアコン洗浄ビジネス提案のアプローチだ。コスモスベリーズは2004年よりのパソコン事業強化のため、ヤマダ電機とのPC商品業務契約が成立。その後2005年、ヤマダ電機と豊栄家電の共同出資により、新会社として誕生した。その事業内容は家電小売店事業を営む加盟店メンバーへの商品、販促、情報など協業システムの提供や加盟店メンバーへの配達据付、工事、修理などのソフトサービスシステムの提供及び協業。さらに加盟店メンバーへのコンテンツビジネスの提供、家電事業の拡大及び参入を目指す異業種関連業種への家電販売事業の提案及び協業。加盟店メンバーへの情報システムの提供による経営・営業活性化支援及び指導教育がこれにあたる。

エアコンクリーニング協会では同協会がこれまで培ってきたエアコン洗浄ビジネスをコスモスベリーズのビジネスコンテンツに加えることで、さらに新たなビジネス展開ができるものと強くアピール。これらの協業へ向けて前向きな話し合いがなされていると

エアコン洗浄風景

いう。さらに省エネ化への切り口としてLED照明器具を使用した改修・改善を今後展開させていく。「省エネ手段のカテゴリーは大きくは熱源転換などがあるが、当協会会員の規模に見合った提案として、まずはLED照明器具の交換による省エネ化などを切り口として、さらに洗浄ビジネス、ATP検査などの予防診断などへ道筋をつけていきたい。

ATP検査とはふき取り検査を意味し汚染物質（ATP量）を高感度に測定するもの。当協会では半導体向けクリーンルーム用の中高性能フィルターで知られるニッタと提携し同社のATP検査ふき取りキットである「ルミノメーター」を使用しておよそ数十秒程度で衛生状態の改善をする。清浄度検査としては、最も支持されている検査方法。これを同協会のビジネスメードでもある食品工場などの空調吹き出し口へのふき取り検査を行う。また省エネ検証では、エアコン丸洗いが専従で洗浄事業を行った同・大手食品工場の室内5度Cに温度・湿度が一定に保たれた冷蔵倉庫で一ヶ月に渡り計測、現行基準よりおよそ19%の省エネ改善を達成したデータをとっている。

同協会がこれまで行ってきた基本的な洗浄工法は特許第3406038号を取得した洗浄方法であり、その特長は独自のA・B・C3つのタンクを搭載した薬液専用機を持ち、高圧ポンプによる洗浄で送風ファンを回転させながらでも洗浄を行うことができる。これにはピストルタイプの専用ノズルで水圧0～3・5Mpaの間の可変を自在に操作し目視洗浄を行うというもの。洗浄液にはアルカリ、酸性の2種を使用することで多種類の汚れと臭いを分解し廃液においては2種の中和で安全な廃棄処理を行うことができる。

挨拶する西村理事長

第16回総会を開催
エアコンクリーニング協会
平成22年度は会員10社増

NPO法人エアコンクリーニング協会は12日と13日の両日、千葉県船橋市のセミナーハウス「クロス・ウェーブ船橋」において、第16回総会を開催した＝8面に関連記事。

総会は、第1部・本部報告会、第2部・会員活動報告、第3部・総会、第4部・懇親会、第5部・全体討論形式による戦略会議の5部で構成、第1部から第4部までを1日目に、第5部を2日目に執り行った。

第1部の冒頭で、西村事長は、環境と省エネがく求められている今日において、エアコンクリーグの果たすべき役割はいとし、会員各社の活躍対する期待を語った。

第1部の本部報告会は、新入会員の紹介（ソック設備工業、いせ電化ンター、南信工営、ゼア、ながお）のほか、本提案として「新たなビスモデルの提案」と題し「ATP検査法を活用し顧客開拓手法」（ニッタスモス・ベリーズ）、「LD照明による顧客開拓法」なども行われた。

また第2部の会員活動告では優秀会員表彰（エコン丸洗い東日本、米倉機）、のほか、関東燃料業組合、熊谷燃料住設、アコン丸洗い東日本、本（工場用、葬祭ホールのアコン洗浄実績）らが事報告を行った。

第3部の総会では、平21年度活動報告（本部告）、平成22年度活動方（本部方針報告）、会計告（平成21年度実績と平22年度予算案）が議案として提出され、いずれも承された。

なお、平22年度のエコンクリーング協会の標（数値目標は、会員10増強、ATP事業参加者5者5社の実現、ED事業参加者5社の実現の3点を挙げている。